財団法人 東洋文庫年報

昭和52年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和52年度

目　　次

Ⅰ　昭和52年度の東洋文庫……3
Ⅱ　図　書　事　業……5
　1.　図書の収集・整理と閲覧……5
　2.　図書資料の整理と閲覧……6
　3.　資料複製増刷サービス……7
　4.　展　示　会……7
Ⅲ　研　究　事　業……9
　1.　調　査　研　究……9
　　i　文部省科学研究費による調査研究……9
　　ii　一般調査研究……10
　　iii　特別調査研究……12
　　vi　研究委員会……14
　2.　学術図書出版……15
　3.　講　演　会……16
　4.　展　示　会……17
　5.　研　究　会……17
　6.　研 究 者 養 成……17
　7.　国内・国外研究者への便宜供与……17
　8.　職員の研究業績……18

Ⅳ　業 務 報 告……………………………………………………………………30
1.　庶 務 報 告……………………………………………………………………30
2.　人 事 報 告……………………………………………………………………32
3.　会 計 報 告……………………………………………………………………33
Ⅴ　役職員名簿……………………………………………………………………39
1.　役　　員……………………………………………………………………39
2.　東洋学連絡委員会委員……………………………………………………………40
3.　名誉研究員……………………………………………………………………40
4.　職　　員……………………………………………………………………41
5.　臨 時 職 員……………………………………………………………………42
Ⅵ　財団法人・東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センター事業……………………………………43
1.　調査研究事業……………………………………………………………………43
2.　学術交流及びドキュメンテーション活動……………………………………45
3.　出版物の作成……………………………………………………………………48
4.　業 務 報 告……………………………………………………………………51
5.　役職員名簿……………………………………………………………………54

Ⅰ 昭和52年度の東洋文庫

財団法人東洋文庫の蔵書がG・E・モリソンの蒐書を基礎に，欠けたるを補い，新しきを加えて，今日に至っていることは，更めていうまでもない。そのモリソンの蔵書を岩崎久弥氏が購入されたのが大正6年（1917）8月29日，それが東京に到着したのが同年の9月26日のことである。昭和52年（1977）は正にその60周年に当る。

東洋文庫はこれを記念すべく三つの事業を計画した。その第1は東洋文庫蔵書目録の印刷である。その第2は記念展覧会，第3は記念講演会の開催である。

東洋文庫の蔵書の印刷目録としては，モリソンが売渡しに当って作成したタイプライター刷の目録をそのまま印刷に附した「G・E・モリソン博士アジア図書館目録」（Catalogue of the Asiatic Library of Dr. G. E. Morrison, Now a Part of the Oriental Library, Tokyo, Japan, in Two Parts, Tokyo : The Oriental Library, pp. 8+802, 551）を始め，展覧会目録を加えれば，60種に上るものが世に送られている。しかし，それらは，一括寄贈あるいは購入された個人の蒐書の目録であったり，東洋文庫の蔵書の一部門の，あるいは更にその一部分の目録であって，和漢洋はもとよりアジア諸地域の現地語の図書や関係資料併せて70万点から成る東洋文庫の蔵書の全貌を伝えるものではなかった。

東洋文庫にその蔵書の全貌を示す印刷目録のないことは，これを利用する人々にとって誠に不自由なことである。そこでモリソン文庫渡来60周年を機会に東洋文庫蔵書の総目録を編集出版することとし，これまで最も需要の多かったいわゆる洋書の第Ⅲ部支那（China Proper）と漢籍（経・史・子・集）の経・史・子の部分とをまず採上げることとした。編集刊行に必要な費用については，この事業の意義と必要性とを理解される三菱財団の援助を得ることになり，昭和55年度までに刊行せられる運びになった。

記念事業の第2である記念講演会については，この年報の関係個所に記されている通りである。

記念展覧会は，国会図書館の展示場を借りて12月6日から5日間行われた。入場者929名。この数字は例年東洋文庫で行う場合の2倍に近い。これは主として会場の関係によるものであって，会場を貸与された国会図書館当局の厚意に深謝する次第である。

なお，専務理事榎一雄は内外ニュース社刊行の週刊紙「世界と日本」第264号（昭和52年4月25日）から第283号（9月5日）に至る20号に「東洋文庫の60年」と題する文章を発表し，東洋文庫を今日あらしめた岩崎久弥氏を始めとする関係諸氏の熱意と努力とを偲び，研究機関としての東洋文庫は将来とも民間の研究団体として，国立研究機関には期待できない自由で融通性に富んだ活動を行い，国立研究機関の欠を補

いながら，日本の，そして世界の東洋学研究の発展に一層寄与したいこと，図書館としての東洋文庫はこれまで通り，研究書の蒐集に併行して，未刊行の文書を始めとする史料の入手に力を入れて行く計画であることを述べた。この文章はその後，長谷川才次氏監修の「世界と日本ところどころ」（東京，善本社，昭和52年11月刊，200—325頁）に収載せられた。

財団法人東洋文庫は大正13年11月19日に設立せられた。そして，毎年11月19日を創立記念日として祝っているが，本年はこの日にモリソン文庫渡来60年をも併せ祝賀した。東洋文庫が戦後の経済事情の変動に耐えて今日に至ったことは，日本政府を始め，内外の諸財団，諸法人，民間の諸有志の後援と，内部に在ってその職務に挺身してきた職員の努力の賜である。これを機会に東洋文庫の一層の発展を期したい。

10月31日，東洋文庫はソ連科学アカデミィ東洋学研究所代表団を迎えて，同研究所の刊行物と東洋文庫の刊行物との相互贈呈式を行った。団長はゲオルギ＝フェドロウィッチ＝キム（Georgi Fedorovich Kim）博士。博士はソ連アカデミイ準会員，ソ連アカデミイ東洋学研究所アジア・アフリカ諸国発展総合問題部長である。団員はソ連科学アカデミイ幹部会対外交流局次長イゴール＝ヴィクトロウィッチ＝ミロヴィドフ（Igor Victoroich Milovidov）博士とソ連科学アカデミイ極東問題研究所監事兼研究員ニコライ＝ワシリィエウィッチ＝ワシリィエフ（Nikolai Vasilievich Vasiliev）博士である。この相互贈呈式には三笠宮崇仁親王殿下の台臨を仰ぐ予定であったが，都合で御取止めを願い，式の後国際文化会館で行われた歓迎昼食会にのみ御臨席頂いた。この行事は専ら国際文化会館理事長松本重治氏の斡旋によって行われたものである。松本氏は昨昭和51年８月ソ連を訪れ，東洋学研究所所長のガフーロフ（Bobodjan Gafurovich Gafurov）博士に会って，東洋文庫がソ連のアジア研究に関する毎年の出版物の全部を組織的に蒐集し，展示して日本の学者の利用に供したいとする希望を伝え，取敢えず入手を切望する単行本約100点と定期刊行物104点のリストを手交して下さった。ガフーロフ博士はこれを快諾せられたが，不幸にもそれから１ヶ年に足りない昭和52年７月の中頃急逝せられた。しかし後継の諸氏の協力と松本氏の根気強い斡旋継続とによって実現を見たものである。我等はその厚意を深く感謝する。ただ東洋文庫の意図が殆ど理解されず，寄贈された出版物は既収のものが大部分であって，更めてソ連との交渉の難しさを実感させられた。交換の詳細については，別項に記す通りである。

なお，松本重治氏のソ連における交渉については，氏の筆になる「モスクヴァとレニングラードと，初の訪ソ10日間の日記(2)」（中央公論，昭和52年新年号，特にその104頁以下の「ガフーロフ所長との会談要領」）を，ソ連のアジア研究出版物の組織的蒐集についての東洋文庫の計画については，榎一雄の「東洋文庫の60年」（「世界と日本ところどころ」，307—320頁）を，ガフーロフ博士については，榎一雄「ガフーロフ博士の訃」（東洋学報第59巻第１・２号，198—206頁）を参照せられたい。

Ⅱ　図書事業

1.　図書の収集・整理と閲覧

購入・交換・受贈によって収集した資料は，一般文献資料のほか，特に中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料があり，昭和52年度末現在の蔵書数は587,584冊となった。

・資料購入

	和漢書	洋書	複写資料	計
一般文献資料	267	100		367
中央アジア特別研究資料		527	22	549
東アジア特別研究資料	1,243	196	35	1,474
西アジア特別研究資料		454		454
計	1,510冊	1,277冊	57	2,844

・資料交換

	受贈			寄贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
単行本	1,042冊	499冊	1,541冊	556冊	216冊	772冊
定期刊行物	1,620	886	2,506	162	170	332
計	2,662	1,385	4,047	718	386	1,104

10月31日，ソ連邦科学アカデミー東洋学研究所代表団を迎えて相互贈呈式を行なった図書は，受贈548冊，寄贈453冊であった。

なお受贈図書は，整理後別置して公開されている。

2. 図書資料の整理と閲覧

・製本数量内訳

本年度の製本施工数量は下記の通りである。

	単行本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	その他
数量(冊)	7	209	153	902	906

・図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用状況ならびに内訳は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧者数	一日平均	昨年同月との比(△印は減)	閲覧図書数	一日平均	昨年同月との比(△印は減)
4	24	326	13強	36	4,305	179強	△1,244
5	23	390	17弱	20	5,507	239強	△ 533
6	25	356	14強	△88	4,411	177弱	△3,732
7	25	511	21弱	△73	6,143	246弱	△3,707
8	26	531	21弱	△46	9,196	354弱	1,172
9	23	436	19弱	10	6,036	262強	120
10	24	526	22弱	60	7,465	311強	248
11	22	549	25弱	88	8,448	349弱	1,236
12	22	395	18弱	△11	5,606	255弱	157
1	21	275	13強	△ 7	4,155	198弱	△ 907
2	22	315	14強	4	5,778	262強	724
3	25	407	16強	38	5,426	217強	520
計	282	5,017			72,476		

・閲覧図書数内訳

月	和書		漢書		洋書		合計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	267	455	596	3,464	255	386	1,118	4,305
5	298	625	725	4,562	211	320	1,234	5,507
6	230	337	695	3,624	212	450	1,137	4,411
7	347	760	851	4,902	262	481	1,460	6,143

8	394	927	1,230	7,643	432	626	2,056	9,196
9	405	854	779	4,506	413	676	1,597	6,036
10	399	659	968	6,449	271	357	1,638	7,465
11	399	583	1,058	7,471	278	394	1,735	8,448
12	217	323	772	4,966	199	317	1,188	5,606
1	122	202	572	3,634	193	319	877	4,155
2	233	355	751	4,939	179	484	1,163	5,778
3	268	461	828	4,437	278	528	1,374	5,426
計	3,569	6,541	9,825	60,597	3,183	5,338	16,577	72,476

3. 資料複製増刷サービス

国内外の研究者・研究機関の閲覧・利用の便に供するために行なったもので，実績は下記の通りであった。

・マイクロ・フィルム

申込件数	撮影駒数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
926件	212,153駒	130,791枚	110,541駒

・電子複写

申込件数	撮影枚数
1,677件	102,316枚

4. 展示会

モリソン文庫渡来60周年東洋文庫展示会

モリソン文庫渡来60周年を記念して，モリソンの人物とその書籍蒐集の苦心とを偲び，その文庫の重要性を認めて，それを買取られた岩崎久弥氏の達識を讃え，併せて東洋文庫の歩みのあとを回顧し，将来へむかってなお一層の発展への第一歩を踏み出すための門出を壮んにするの展示会を下記の通りおこなった。

日時：昭和52年12月6日（火）～10日（土）

場所：国立国会図書館６階講堂
展示品：

第　1　部　モリンソン博士とモリンソン文庫（伝記，著書，対談記事等50点）
第　2　部　洋書（1.ヨーロッパ人のみた中国，2.東洋の博物，3.ヨーロッパ人の日本来航の項目をたて，〔重文〕ドチリーナ・キリシタン，〔重文〕ジョン・セーリス航海日記など35点）
第　3　部　漢書他（宋板儀礼，〔重文〕楽善録等各年代の刊本，鈔本，朝鮮本，チベット本等27点）
第　4　部　国書（〔国宝〕明恵上人歌集，〔重文〕律，〔重文〕令義解等23点）
第　5　部　中国風俗画

総計135点の図書資料を展示した。

展示会目録（Ｂ５版，37頁）とリーフレットを作成配布した。なお，同会期中の入場者は929名であった。

Ⅲ 研究事業

1. 調査研究

調査研究は，文部省科学研究費によるものと，文部省民間学術研究機関補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

一般研究A

【課題】 中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究

【期間】 昭和52年度

【目的】 東アジアにおける現代の国際情勢を理解するためには，19世紀中葉以降現代に至る中国をめぐる東アジア近代国際関係史の研究が必要である。殊に，その多面的な発達の現段階に照し，その関係資料（外交文書，新聞，雑誌等）を網羅的に収集し，かつ個々の価値につき，歴史学・国際政治学・法政史学・経済史学に関する各専門研究者の分担研究を結集して，書誌的・史料批判的研究を行なった。また，その収集資料については，いずれもカード目録を作成し，広く一般の研究者の利用に準備した。

【事業】 東洋文庫の近代中国研究室が中心となって，今日までに収集してきた近代中国関係の資料は，わが国では言うに及ばず世界屈指といわれる。この実績を背景とし，これと結びつけて以下の調査研究を行なった。

⑴近時各国から公表されつつある近代中国に関する各種文書のマイクロ・フィルムを中心として関係資料の収集・増補

⑵それら諸資料の書誌的・史料批判的研究

⑶また京都大学をはじめ国内大学諸機関が所蔵する関係資料との比較調査

⑷さらに，それら諸資料の公開ならびに共同利用研究に供するための整理・分類作業

⑸そして，新規購入・増補資料の資料名別，あるいは内容事項別目録を刊行するための準備的編集作業

【代表者】 榎 一雄

【分担者】 統括；榎 一雄
社会・文化班；榎 一雄，神田信夫
法と政治班；坂野正高，滋賀秀三
経済班；山根幸夫，田中正俊
資料収集・整理班；本庄比佐子

ii 一般調査研究

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】(1)梅原末治氏寄贈にかかる東亜考古学資料の整理と目録の作成：特に，日本之部を含む東亜之部の青銅器資料の整理と目録の補充とを行なった。

古代史研究委員会

【資料の整理・編集】(1)東洋文庫所蔵の甲骨文資料約610片の整理・研究並びに内容分類資料集の編集再点検を終了した（『東洋文庫所蔵甲骨文資料集』の作成）。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究・及び情報提供】(1)国内国外に現存する西域出土古文献・古文書の所在調査，マイクロ・フイルムによる収集。
(2)内外諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献資料の公開，情報の提供。
(3)内陸アジア出土古文書内容分類別カードの作成と，これに関する研究文献目録の編集。
(4)敦煌・吐魯番出土漢文文献における『唐代法制史料集』(写真編・解説編)の研究・編集・刊行（作成中）。
(5)内陸アジア出土古文献研究会の開催。

第1回	4月23日	山田信夫：	「ウイグル文書のNišanとTamya」
第2回	5月21日	北原 薫：	「敦煌籍帳に現われた三代資状注記㈠」
第3回	10月8日	金岡照光：	「敦煌文学文献語彙の性格」
第4回	11月25日	菊池英夫：	「吐魯番出土開元3年西州営諸隊火別請受馬料帳について」
第5回	12月10日	木村隆徳：	「敦煌チベット文献の研究概観」
第6回	1月28日	山本達郎：	「大英図書館所蔵スタイン将来漢文文書S.8443とS.8444——消費貸借と貢納賞賜に関する史料——」
第7回	2月25日	池田 温：	「敦煌文献中の判文集について」

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究及び情報活動】(1)『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の増補並びに語彙の研究。
(2)宋代研究文献目録及び速報の作成。

明代史研究委員会

【講読・研究】(1)『海瑞集』を主として，明代社会制度に関する文献の講読・研究。

近代中国研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び編集】(1)中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究。
(2)中国共産党史資料の書誌的研究。
(3)『日本人の中国旅行記及び調査報告書の目録』の編集（作成中）。
(4)清末外交文書月例研究会の開催。

近代日本研究委員会

【資料の収集・研究】(1)近代における欧米列強と東アジアないし日本との国際関係，および近代日本と大陸諸民族との国際関係について，国際政治のみならず国際経済の資料をも収集し，これらの世界史的性格の総合的研究。

清代史（満州・蒙古）研究委員会

【校訂本・訳註の作成】(1)『旧満洲檔』の『満文老檔』未収部分の訳注原稿の作成。
(2)『年羹堯奏摺』(満文）の訳注。

朝鮮研究委員会

【資料の収集・研究】(1)朝鮮法制書の調査収集，およびその講読。
(2)李氏朝鮮の民政関係史料の収集・整理・研究。
(3)漢字の朝鮮音韻の研究・調査。

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・研究】(1)隊商貿易史の研究。
(2)中央アジア・トルコ諸民族史の研究。
(3)イスラム社会の構造の研究。
(4)トルコ・日本両国の近代化の比較研究。
(5)イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。
　第1回　4月22日　加藤　博　「中世エジプトの貨幣事情」
　第2回　6月24日　設楽国廣　「青年トルコ運動をめぐって」

第３回　10月26日　米林　仁　「オスマン朝草創期における軍事集団—オスマン朝初期年代記を中心として—」

第４回　11月25日　井谷鋼造　「ルーム・セルジューク朝とホラズムシャーの戦いについて」

第５回　12月16日　勝股行雄　「アッバース朝末期における官僚政治の展開」

第６回　１月27日　後藤　明，花田宇秋，清水宏祐　特別シンポジウム「初期イスラム国家論—君長権をめぐって—」

第７回　２月24日　相野洋三　「ビザンツ・アラブ交渉史—648～965年のキプロス史をめぐって—」

南方史研究委員会

【資料の収集・研究・編集】⑴『東洋文庫所蔵東南アジア関係欧文図書分類目録』の編集・刊行（刊行済）。

⑵『東洋文庫所蔵インド関係欧文図書分類目録』（増補）の編集。

③インド古代社会に関するサンスクリット語・パーリー語・漢文資料をマイクロ・フィルム，その他によって網羅的に収集し，その調査・分類を行なう。

iii　特別調査研究

チベット研究委員会

チベット研究委員会は，昭和36年度にインドからチベット人研究協力者を招聘し，以来「チベット人との協同によるチベットの言語・歴史・宗教・社会の総合的研究」を実施して来た。昭和43年度からは，その新たな展開と充実を企図し，東洋文庫に対する文部省補助金による第１次10カ年計画のチベット特別調査研究を行なってきた。研究テーマ「チベットの歴史と文化の系統」は，対象とする時代を年度別に下記の様に設定し，チベットの文化，社会の諸相について，周辺諸地域の文化，社会と比較しつつ，その特質を究明した。

昭和43～45年度：　古代チベット（７世紀以前，　7～10世紀）
昭和46・47年度：　中世チベット（10～14世紀）
昭和48・49年度：　近世チベット（15～17世紀）
昭和50・51年度：　近代チベット（18～19世紀）
昭和52年度：　現代チベット（20世紀）

昭和52年度現代チベット（20世紀）調査研究報告

〔歴史班〕榎　一雄，山口瑞鳳，金子良太

〔宗教班〕山口瑞鳳，川崎信定，立川武蔵
〔言語班〕北村　甫，星　実千代，長野泰彦，原田　覚
〔チベット人研究協力者〕S・G・カルメー，ケサン・ナムゲー

昭和52年度は，第1次10年計画による研究テーマ「チベットの歴史と文化の系統」の最終年度に当るが，本年度計画は19世紀末から現代までを対象として，以下の研究事業を実施した。

Ⅰ　歴史班担当

18世紀末，ネパールとチベットの経済的利害に端を発して，1788年にグルカの侵入があり，清側の仲介がその処理をあやまって，莫大な賠償を約束した。その支払いにチベット側が渋ったので，1791年秋にグルカ軍はシガツェまで，侵入した。しかし，補給路を断たれ，翌年夏キロンまで退いた。
この時点で福康安の清軍が到着，チベット軍も伴ってネパールに入り，グルカを降伏させ，清朝の失点を回復した。しかし，1841年以前のドクラ戦争では，阿片戦争の清から援軍は得られず，チベットは自らの力で講和にこぎつけた。以来清朝の権威は形だけのものとなった。

Ⅱ　宗教班担当

チャンキャ・ルルペドルジェおよびジャムヤン・シェペドルジェによる2種の『宗義大成』の記述によると，いずれも中観派ラン・ギュパを中観派テル・ギュル派に亜ぐものとするが，唯識教学より上位に位置づける。これらの教義的理由について明らかにすることができた。

Ⅲ　言語班担当

(1)近代チベット語の研究：昭和51年度に引き続き，『五体清文鑑』(18世紀末）の奉天故宮旧蔵本，北京重華宮旧蔵本，大英博物館蔵本相互の異同を調査し，現在，設官部二，臣宰類について作業が進行中であり，異同の調査を終了した項目について近代チベット語諸資料に記載されている形式との比較を進める。

(2)『チベット語文語辞典』の編集準備：昭和53年度から実施される新しい研究テーマ『チベット語文語辞典』の編纂を計画するために，その編集の準備作業として，チベット大蔵経中の主要文献に関する内外の諸研究の調査を進めつつある。

Ⅳ　研究成果の刊行

「チベットの歴史と文化の系統」の研究課題のもと，最終年度調査研究の成果として以下の５点を編集・出版した。

⑴チベットの法話集『リンチェン・テルズ』目録

⑵東洋文庫所蔵の『ボン教文献解題目録』

⑶『東洋文庫所蔵チベット蔵外文献索引稿』

⑷『西蔵仏教宗義研究』　第二巻　―トウカン『一切宗義』シチェ派の章―

⑸『スタイン蒐集チベット語文献解題目録　―第二分冊―』

Ⅴ　研究会

昭和48年度から東洋文庫チベット研究委員会主催のチベット月例研究会を東洋文庫において開催し，研究活動および研究者の交流をはかっている。昭和52年度の研究報告は次の通りである。

第１回　４月23日　川崎信定：「チベット資料の仏陀伝」

第２回　５月28日　北村　甫：「現代チベット語研究の現状」

第３回　７月２日　松本史朗：「サキャパンディタの教学について」

第４回　９月17日　田中公明：「“rGyud sde kun btus”に於ける金剛頂宗のマンダラ」

第５回　10月15日　上杉隆英：「Jo naṅ pa の gshan pton 説について」

第６回　12月10日　木村隆徳：「敦煌のチベット文献について」

第７回　１月21日　津田真一：「タントラ仏教の論理」

iv　研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は，５部門12研究委員会にわかれる。昭和52年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第１部　中国研究

東亜考古学：梅原末治，小山　勲，関野　雄，渡辺兼庸

古代史：越智重明，宇都木　章，河野六郎

唐代史（敦煌文献）：榎　一雄，池田　温，菊池英夫，佐藤智水，土肥義和，藤枝晃，松本　明

宋代史：青山定雄，草野　靖，佐伯　富，周藤吉之，竺沙雅章，中嶋　敏，古垣光一，渡辺紘良

明代史：田中正俊，鶴見尚弘，濱島敦俊，山根幸夫
近代中国：市古宙三，田中正俊，坂野正高，本庄比佐子，山根幸夫

第2部　近代日本研究
近代日本：岩生成一，田中時彦，鳥海　靖，亀井　孝，酒井憲二

第3部　東北アジア研究
満州・蒙古（清代史）：榎一　雄，岡田英弘，神田信夫，松村　潤
朝鮮：河野六郎，末松保和，田川孝三，森岡　康

第4部　中央アジア・イスラム・チベット研究
中央アジア・イスラム：榎　一雄，後藤　明，清水宏祐，志茂碩敏，永田雄三，花田宇秋，護　雅夫
チベット：榎　一雄，金子良太，川崎信定，北村　甫，長野泰彦，原田　覚，松濤誠達，山口瑞鳳，S・G・カルメー，ケサン・ナムゲー

第5部　インド・東南アジア研究
南方史：荒　松雄，生田　滋，岩生成一，榎　一雄，後藤均平，辻　直四郎，蔀勇造，松本信廣，三根谷　徹，山崎元一，山本達郎

2. 学術図書出版

東洋文庫欧文紀要
Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko. No. 35. 1977年刊 B5判 273頁

東洋文庫和文紀要
東洋学報　第59巻1・2号　昭和52年10月刊　A5判　265頁
東洋学報　第59巻3・4号　昭和52年3月刊　A5判　220頁

東洋文庫各種委員会刊行物
南方史研究委員会
『東洋文庫所蔵東南アジア関係欧文図書分類目録』 昭和53年3月刊　B5判　322頁
チベット研究委員会
『リンチェンテルズ目録』 昭和52年6月刊　B5判　312頁

『ボン教文献解題目録』 昭和52年8月刊 B5判 191頁
『西蔵仏教宗義研究 第2巻』 昭和53年3月刊 B5判 75頁
『スタイン蒐集チベット語文献解題目録 第2分冊』 昭和52年3月刊 B5判 136頁
『チベット蔵外文献索引稿』 昭和53年3月刊 B5判 68頁

東洋文庫諸目録其他刊行物
『東洋文庫新着図書目録 第25号』(和書・中国書・朝鮮書) 昭和53年3月刊 B5判 65頁
『財団法人東洋文庫書報 第9号』 昭和53年3月刊 A5判 188頁
『財団法人東洋文庫年報 昭和51年度』 昭和53年3月刊 A5判 53頁
(「東洋文庫所蔵図書分類目録」(洋書一中国之部，漢籍一経部)(編集中))

3. 講演会

(本年度春秋二期の東洋学講座は，モリソン文庫渡来60周年記念講演会である。)

春期 東洋学講座(第295回～298回)
榎 一雄「敦煌とヤールカンド 一キャラヴァン貿易史の一齣一」(5月24日)
海野一隆「支那地図学史上の日本」(5月31日)
荒居英次「近世の中国向け輸出貿易と国内産業」(6月7日)
吉田金一「清初の露清関係をめぐる諸問題」(6月14日)

秋期 東洋学講座(第299～302回)
外山軍治「洪皓と松漠紀聞」(10月18日)
福井康順「中国思想史の諸断面」(10月25日)
末松保和「好太王碑文研究余話」(11月1日)
榎 一雄「ヨーロッパの近代化とアジア」(11月8日)
(なお，各講演の要旨については，『東洋文庫書報』第9号に掲載されている。)

特別講座
陳 志讓(カナダ)「中国共産党史の諸問題」(4月20日)
M・J・メイヤー(オランダ)「清律における故殺について」(10月12日)
K・グラマン(デンマーク)「17世紀における日本の銅とヨーロッパの権力政治」(11月12日)

4.　展 示 会（モリソン文庫渡来60周年記念東洋文庫展示会）

日時：昭和52年12月６日～10日（５日間）
場所：国立国会図書館６階講堂
展示品：Ⅱ，4. 展示会・展示品の項参照。

5.　研 究 会（東洋文庫談話会）

坂野正高「中国をまわって—友好の旅の２週間—」（４月16日）
北村　甫「現代チベット語研究の現状」（５月28日）
濱島敦俊「明代前期の水利慣行について—『田頭制』再考—」（６月11日）
河野六郎「転注考」（９月24日）
田川孝三「李朝における地方の自治組織と民政」（11月５日）
菊池英夫「新出トルファン資料中の軍政関係文書について」（11月15日）
山崎元一「アンベードカルの仏教」（11月26日）
鳥海　靖「日中戦争下の民間和平工作に関する新資料」（２月25日）
（なお，各発表の要旨については，『東洋文庫書報』第９号に掲載されている。）

6.　研 究 者 養 成

中国研究：浜下武志「中国近代経済史研究—金融問題を中心として—」
（佐藤智水，昭和52年12月１日，岡山大学法文学部専任講師に就任の為，辞退）
チベット研究：原田　覚「吐蕃仏教の研究」
（長野泰彦，昭和52年９月，アメリカ・カルフォルニア大学に留学の為，辞退）
中国研究：古垣光一「宋代官僚制の研究」

7.　国内・国外研究者への便宜供与

日本学術振興会流動研究員・奨励研究員

流動研究員

濱島敦俊（北海道大学助教授）〔課題〕「明清時代，地主一佃戸関係の総合的研究」（昭和52年度　上半期）

奨励研究員

蔀　勇造〔課題〕「古代南アラビア史のクロノロジーの研究」

便宜供与した外国人研究者

陳　志譲（カナダ・ヨーク大学教授）昭和52年2月～8月（7ケ月間）

李　佑成（大韓民国・成均館大学教授）昭和52年7月～12月（6ケ月間）

8.　職員の研究業績

（期間：昭和52年4月1日～昭和53年3月31日まで）

略号：①…著書　②…編書　③…論文　④…学会動向　⑤…書評・紹介　⑥…翻訳　⑦…講演・研究発表　⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

荒　松雄

①『ヒンドゥー教とイスラム教一南アジア史における宗教と社会一』（岩波新書，1977年5月，223頁），『インド史におけるイスラム聖廟一宗教権威と支配権力一』（東大出版会，1977年9月，本文671頁，図版46，挿図331）。

池田　温

③「義熙九年倭国献方物をめぐって」（『江上波夫教授古稀記念論集・歴史篇』27～47頁，山川出版社，1977年5月），「トゥルファン漢文文書に見える外族」(月刊シルクロード4－2，14～16頁，シルクロード社，1978年2月），「敦煌本判集三種」「『末松保和博士古稀記念古代東アジア史論集（下）』419～462頁，吉川弘文館，1978年3月），⑤「堀敏一著『均田制の研究』」(史学雑誌86－9，85～92頁，史学会，1977年9月），⑦「敦煌・吐魯番発見唐代法制文献」(法制史学会大会於明大，1977年4月3日），「楊貴妃」(NHK通信高校講座，1977年8月11日），「敦煌文献中の判文集について」(東洋文庫 内陸アジア出土古文献研究会，1978年2月25日），⑧「均田制」「律合格式」(西嶋定生・護雅夫等編『世界歴史の基礎知識（1）』154～157，270頁，有斐閣，1977年5月),「乾陵をたずねて一中国と日本のつながり」(『日中友好大学教員友好訪中団文集』10～12頁，1977年）。

岩生成一

①『南洋日本町の研究』（1977年8月　第二版，1978年2月　第三版，岩波書店，383頁)，『朱印船と日本町』(昭和52年2月25日重版，至文堂，232頁），②監修『和蘭風説書の研究（上巻）(328頁，吉川弘文館，昭和52年2月），監修『Bibliographical Dictionary of Japanese History』(655頁，国際教育情報センター，1978年3

月)，⑧「フロイス研究の二大パイオニヤ―」(フロイス日本史4，附録4，1～3頁，中央公論社，1978年4月)，「甲必丹の娘コルネリヤの生涯」(歴史と人物，昭和五十三年一月号，142～155頁，中央公論社)，「十六七世紀のコスモポリタンたち」(産経デラックス歴史シリーズ8，12～15頁，産経ジャーナル，昭和52年12月25日)。

榎　一雄

①『東西文明の交流』(『図説中国の歴史』11，182頁，講談社，1977年11月)，『東洋文庫の六十年』(126頁，東洋文庫，1977年11月)，③「支那関係古地図資料の集成と発現」(東方学54，141～148頁，東方学会，1977年7月，cf 歴史研究1978・2，95～96頁)，「貸本屋と図書館」(ももんが20―12，2～4頁，1977年12月)，「岡本保孝について」(日本随筆大成，3期9巻附録，3～4頁，吉川弘文館，1977年)，「Fu An's 傅安 Mission to Central Asia」(Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko 35，pp. 219～231，1977年)，「小月氏と尉遅氏」(『末松保和博士古稀記念古代東アジア史論集（下）』，391～418頁，吉川弘文館，1978年3月)，「岡本保孝のこと（下）」(東洋文庫書報9，1～50頁，東洋文庫，1978年3月)，「オーレル＝スタイン著作目録」(監修，東洋文庫書報9，105～128頁，東洋文庫，1978年3月)，④「イタリア中東亜研究所のパキスタン・アフガニスタン・イランにおける考古学的調査（2，完)」(東方学53，135～150頁，1977年)，「支那史から東洋史へ―考証学と近代史学の融合―」(東京大学新聞，1119号，26頁，1977年4月11日)，⑤「『新書東洋史』の刊行に寄せて」(週間読書人1178，4頁，1977年4月25日)，⑦「敦煌とヤールカンド―キャラヴァン貿易史の一齣―」(東洋文庫春期東洋学講座，1977年5月24日，要旨：東洋文庫書報9，162～164頁，東洋文庫，1978年3月)，「ヨーロッパの近代化とアジア」(東洋文庫秋期東洋学講座，1977年11月8日，要旨：東洋文庫書報9，178～181頁，東洋文庫，1978年3月)，「東と西―相互理解の極限―」(女子大通信348，4～25頁，日本女子大学通信教育部，1978年1月)，「西と東―ヨーロッパの近代化とアジア」(昭和52年度第2回アジア講座記録，47頁，財団法人アジア親善交流協会)，⑧「嶋崎昌著『隋唐時代の東トルキスタン研究―高昌国史研究を中心として』」(序文1～6，東京大学出版会，1977年3月刊)，「東方学第53・54輯編集後記」(東方学会，1977年1月，1977年7月)，「日本女子大学入学式祝詞」(1977年4月7日，要旨：女子大通信340，8～9頁，日本女子大学通信教育部，1977年5月)，「恩師相沢平佶先生」(牧陵会ニュース，1977年5月1日，4～5頁)，「(相沢平佶先生に対する）弔辞」(「故相沢平佶先生追悼文集」＜一八会会報第47号―特集号＞，横浜三中一八会，1977年9月30日刊)，「山崎善雄氏宛書簡」(一八会会報第48号，22頁，1977年10月)，「ガフーロフ博士の訃」(東洋学報59―1・2，198～206頁，1977年10月)，「三人の日本学者の逝去―エリセーエフ・ムッチョーリ・アグノーエル」(東洋学報59―3・4，114―128頁，1978年3月)，「貝塚さんの示しているもの」(『貝塚茂樹著作集』附録9，1～4頁，中央公論社，

1977年10月),「世界一貴重なアジア文献」(週刊世界と日本　1977年4月25日以後1977年9月25日に至る20回，全文：「世界一貴重なアジア文献一東洋文庫の60年一」(長谷川才次監修『世界と日本ところどころ』，東京・善本社，1977年10月刊，200～325頁)),「バダクシァンのラピス＝ラズリ（1－3）」(月刊シルクロードⅢ－7，8，9，10～14，9～13，10～13頁，1977年8・9月，10月，11月),「ヨーロッパとアジア（1）―マルコ＝ポーロの財産―」(月刊シルクロードⅣ－1，9～14頁，1977年1月),「明代の〔東トルキスタンの〕交通」(月刊シルクロードⅣ―2，22～26頁，1978年2月),「1976年読書アンケート」(みすず204，29～30頁，1977年2月),「1977年読書アンケート」(みすず214，34頁，1978年1月),「アンケートに対する答」(高校と教育57，6頁，1977年10月18日),「読者の声（インタビュー）」(大白蓮華322，97頁，聖教新聞社，1978年1月),「目標」(日本新育25，社団法人日本教育会，3頁，1978年1月15日)。

越智重明

③「漢時代の家をめぐって」(史学雑誌86－6，1～36頁，史学会，1977年6月),「漢六朝の税役問題」(九州大学東洋史論集6，1～31頁，九州大学文学部東洋史研究会，1977年10月),「Thoughts on the Understanding of the Han and the Six Dynasties」(Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko No. 35. pp. 1～73，1978年3月)。

岡田英弘

①『倭国の時代』(文藝春秋，1976年12月，307頁),『倭国』(中公新書482，中央公論社，1977年10月，220頁)。②『講座・比較文化2　アジアと日本人』(研究社，1977年11月，304頁)。③「現代史としての日本古代史5　大和朝廷は実在しなかった」(諸君！8－5，文藝春秋社，1976年5月),「現代史とての日本古代史6　『古事記』と『三国史記』のニセ系図」(諸君！8－6，文藝春秋社，1976年6月),「現代史としての日本古代史7　総合商社中国と倭人の朝貢」(諸君！8－7，文藝春秋社，1976年7月),「現代史としての日本古代史8　チャイナタウンが歴史を作る」(諸君！8－8，文藝春秋社，1976年8月),「現代史としての日本古代史9　邪馬台国から河内王朝へ」(諸君！8－9，1976年9月),「現代史としての日本古代史10　難波津に咲くやこの花」(諸君！8―10，1976年10月),「西域と卑弥呼」(月刊シルクロード3－4，シルクロード社，1977年5月」,「親魏倭王卑弥呼の正体」(歴史と人物70，中央公論社，1977年6月),「漢字が苦手な中国人」(諸君！9－6，1977年6月),「文字の国の悲哀」(月刊シルクロード3－7，シルクロード社，1977年8月),「真実と言葉」(講座・比較文化2，研究社，1977年11月),「秘密結社」(同上),「中国意外史講座1　人口」(月刊シルクロード3―10，シルクロード社，1977年12月),「邪馬台国は存在しなかった」(歴史と旅5－1，秋田書店，1978年1月),「中国意外史講座2　秘密結社」(月刊シルクロード4－1，シルクロー

ド社，1978年１月)，「『魏志東夷伝』を評す」（『末松保和博士古稀記念古代東アジア史論集（下)』，35～36頁，吉川弘文館，1978年３月）⑤「渡辺昇一『神話からの贈物』」(朝日ジャーナル18—33，朝日新聞社，1976年８月13日)，「同上」(論展３—５，今週の日本，1976年10月)，「吉川幸次郎編『東洋学の創始者たち』」(月刊シルクロード３—３，シルクロード社，1977年４月)，「間野英二『中央アジアの歴史』」(月刊シルクロード３—９，シルクロード社，1977年11月)，「山田豪一『満鉄調査部』」(月刊シルクロード３—10，シルクロード社，1977年12月)，「李圭泰『韓国人の意識構造』」(Voice 創刊号，PHP研究所，1978年１月)。⑥「E. D. フィリップス『モンゴル史』」(学生社，1976年８月，208頁)。⑧「シンポジウム・日本の経済外交」(自由18—４，５，６，７，自由社，1976年４—７月)，「日本は今や文化大国」(言論人303，言論人懇話会，1976年４月15日)，「逆説・江青を弁護する」(言論人331，言論人懇話会，1976年７月18日)，「プロフィル・岡田英弘」(諸君！８—８，文藝春秋社，1976年８月)，「恐妻家としての毛沢東」(月刊カレント14—１　カレント出版委員会，1977年１月)，「中国の『ことば』」(サンケイ新聞夕刊，産業経済新聞社，1977年１月10日)，「中国人と『ことば』—毛沢東語録引用の裏と表」(正論37，サンケイ出版，1977年２月)，「新しい神話　騎馬民族説」(日本文化会議月報61，日本文化会議，1977年５月)，「倭国とは何か」(朝日新聞夕刊，朝日新聞社，1977年９月８日)，「Proceedings of the Third Asian Cultural Scholars' Convention, Tokyo, 28 November-1 December, 1977」(Asian Parliamentarians' Union, Tokyo, Japan, 1977)，「伊丹十三の古代の旅11　気になる倭人伝」(東京12チャンネル系22局，テレビマンユニオン・日経映画社，1977年12月12日22時～22時30分)，「日本の誕生」(夕刊読売新聞，読売新聞社，1978年１月19日)，「広祿先生のこと　イリのシボ族」(月刊シルクロード４—２，シルクロード社，1978年２月)，「外圧の危機から誕生した古代日本」(言論人369，言論人懇話会，1978年２月15日)，「『満文老檔』・『旧満洲檔』対照表　太宗朝」(遊牧社会史探究別冊，遊牧社会研究グループ，1978年３月)。

川崎信定

③「The Mīmāmsā Chapter of Bhavya's Madhyamaka-hrdaya-karika—Text and Translation（１)——筑波大学哲学思想学系論集・昭和51年度」(1～16頁，1977年９月)，「チベット仏教における成仏の理解——仏伝十二相をめぐって——」(『玉城康四郎博士還暦記念論集：仏の研究』267～284頁，春秋社，1977年11月)，"Analysis of Yoga in the Samdhinirmocana-sūtra"（豊山学報21，170～155頁，1976年3月)，「<チベットの死者の書>死後の生存と意識の遍歴」（エピステーメー７月号，112～125頁，1976年７月)，④「唯識思想研究の現況」（『続豊山全書会報』16，１～４頁，1977年５月)，「"Indian Buddhism" oriental Studies in Japan : Retrospect and Prospect　1963—1972　Part Ⅱ-22」(The Centre for East Asian Cultunal

studies, Toyo Bunko, 1～26頁, 1977年)。

神田信夫

①『清帝国の盛衰』(『図説中国の歴史』8, 講談社, 206頁, 1977年8月), ②『満文老檔・旧満洲檔対照表—太宗朝』(松村潤・岡田英弘・細谷良夫と共編,「遊牧社会史探究別冊」, 53頁, 1978年3月), ③「王慶雲の石渠余紀について」(『星博士退官記念中国史論集』297～314頁, 星斌夫先生退官記念事業会, 1978年1月), ⑤「李光濤編『明清史料癸編』」(東洋学報58—1・2, 202～205頁, 東洋文庫, 1976年12月),「宮中檔康熙朝奏摺」(東洋学報59—1・2, 173～176頁, 東洋文庫, 1977年10月), W・サイモン, W・ネルソン編『ロンドン現存満洲本総合目録』(東洋学報59—3・4, 102～107頁, 東洋文庫, 1978年3月), ⑦「雍正帝」(NHKラジオ, 1977年10月17・18日, 要旨：NHKラジオ学校放送・昭和52年度2学期, 45頁, 日本放送出版協会, 1977年9月), ⑧「満文老檔の発見」(歴史と地理254, 20～21頁, 山川出版社, 1976年11月),「旧満洲檔の研究」(明治大学人文科学研究所年報17,, 74～75頁, 明治大学人文科学研究所, 1976年12月),「八旗制度と旗地」,「清朝考証学」(『世界歴史の基礎知識(1)』188～191頁, 有斐閣, 1977年5月)。

菊池英夫

④「東アジア文化圏の成立をめぐる学説の紹介と整理および討論—問題点の指摘」(唐代史研究会編・発行『東アジア文化圏の成立をめぐって』文部省科学研究費総合研究報告書, 5～66頁, 1978年3月), ⑤「愛宕　元『唐代における官蔭入仕について—衛官コースを中心として』」(法制史研究27, 法制史学会年報1977年度, 297～299頁, 1978年3月), ⑦「日唐軍制比較研究上の若干の問題—軍防令と西域出土文書—」(東洋史研究会大会, 1977年11月3日, 要旨：東洋史研究36—3, 東洋史研究会, 164頁, 1977年12月),「新出トルファン資料中の軍制関係文書について」(東洋文庫談話会, 1977年11月15日, 要旨：東洋文庫書報9, 東洋文庫, 185～186頁, 1978年3月)。

草野　靖

③「田面慣行の成立」(法文論叢39, 61～88頁, 熊本大学法文学会, 1977年3月),「旧中国の押租慣行」(社会経済史学43—4, 1～22頁, 社会経済史学会, 1977年12月),「明末清初期における田面の変質—長江下流域沙田地帯の場合—」(法文論叢41, 55～83頁, 熊本大学法文学会, 1978年3月)。

小山　勲

③「江馬修と飛驒の考古学」(塚田光・武井則道共作, どるめん16, 5～18頁, Jicc・出版局, 1978年2月), ⑤「松戸市五香六実地区のフィールド調査報告」(かみしき17, 4頁, 下総史料館, 1977年7月), ⑦「韓国の考古学研究について」(下総考古学研究会, 1977年5月), ⑧「韓国の博物館」(かみしき17, 2頁, 下総史料館, 1977年7月),「シンポジウム・地域研究と考古学—研究共同体をめざして—」(どる

めん14，88～117頁，Jicc・出版局，1977年7月)，「松戸の遺跡とその現状」(かみしき18，2頁，下総史料館，1978年1月)，「韓国考古学の旅」(東洋文庫書報9，151～161頁，東洋文庫，1978年3月)。

河野六郎

③「朝鮮漢字音と日本呉音」(『末松保和博士古稀記念古代東アジア史論集(上巻)』411～437頁，吉川弘文館，1978年3月)，「転注考」(東洋学報59―3・4，1～23頁，東洋文庫，1973年3月)，"On Chuan-chu" (Memoirs of the Reseach Department of the Toyo Bunko No. 35, pp. 183～203，東洋文庫，1978年3月)。

後藤　晃

③「『メディナ憲章』に関する若干の考察」(東洋史研究36―2，1～25頁，東洋史研究会，1977年9月)，⑤「中東教育史の概観」(中東総合研究10，51～57頁，アジア経済研究所，1977年12月)，「アントニー・ウェッセルス著『近代のアラビア語によるマホメット伝――ムハンマド・フサイン・ハイカル著『マホメットの生涯』の批判的研究――』」(東洋学報59―3・4，107～109頁，東洋文庫，1978年3月)，⑧「マホメットと同世代人の伝記」(歴史と地理263，31頁，山川出版社，1977年8月)，「アラブの征服」(世界史のしおり77―11，11～15頁，帝国書院，1977年11月)。

佐伯　富

①『宋史刑法志索引』(学生書局(台湾)，116頁，1967年9月)，『中国史研究(第三)』(同朋舎，522頁，1967年10月)。

佐藤智水

③「北朝造像銘考」(史学雑誌86―10，1～47頁，史学会，1977年10月)，「雲岡仏教の性格―北魏国家仏教成立の一考察―」(東洋学報59―1・2，27～66頁，東洋文庫，1977年10月)，「崇仏と廃仏」(『世界歴史の基礎知識(1)』，148～149頁，有斐閣，1977年5月)。

酒井憲二

②『国語学研究事典』(文字論・文字史・資料篇等14項目，明治書院，1967年11月)，『玉襷』(原本校正，『新修平田篤胤全集』6，明著出版，1967年11月，740頁)，『歌舞伎評判記集成別巻』(翻刻協力，岩波書店，1967年12月，662頁)，③「岩崎文庫の伴信友叢書について」(東洋文庫書報9，51～104頁，東洋文庫，1968年3月)。

志茂碩敏

③「The Qarāūnās in the Historical Materials of the Ilkhanate」(The Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko No. 35, pp. 131～181，1977年)。

滋賀秀三

③「武威出土王杖十簡の解釈と漢令の形態―大庭脩氏の論考を読みて―」(国家学会雑誌90―3，186～206頁，国家学会，1977年3月，正誤表・5号―138頁)。

末松保和

③「好太王碑と私」(『古代東アジア史論集（上）』 1～50頁，吉川弘文館，1978年3月)，⑦「好太王碑文研究余話」(東洋文庫秋季東洋学講座，1977年11月1日，要旨；東洋文庫書報9，174～177頁，東洋文庫，1978年3月)，⑧「水谷悌二郎著『好本王碑考』解説」(135～142頁，開明書院，1977年10月)，「亜細亜協会編『会余録』解題」(282～287頁，開明書院，1977年12月)，「ロンドンの一日一マルクスの墓のこと一」(学習院史学14，88～91頁，学習院大学史学会，1978年1月)。

周藤吉之

③「高麗初期の内侍・茶房と明宗朝の武臣政権との関係一宋の内侍・茶房との関連において一」(東方学55，1～17頁，東方学会，1978年1月)，「高麗初期の宰相，尚書左右僕射について」(『末松保和博士古稀記念古代東アジア史論集（上巻)』287～319頁，吉川弘文館，1978年3月)。

関野　雄

③「中国古代の科学技術」(東洋鍼灸医学雑誌50，3～18頁，経絡治療研究会，1977年7月)，④「新中国における考古学の成果」(法政史学29，1～10頁，法政大学史学会，1977年4月)，「中国考古学の現況（上)・(下)」(中日新聞，1977年9月20・21日夕刊；東京新聞，1978年2月7・8日夕刊)，⑦「中国における遺体保存の奇跡」(お茶の水女子大学公開講座，1977年9月3日)，「中国古代文明の驚異」(中日新聞講演会，1977年10月29日)，⑧「美の美一加彩楽舞雑技俑群」(日本経済新聞，1977年9月27日朝刊)，「湿屍の謎」(『古代文明の謎と発見』5，105～166頁，毎日新聞社，1977年1月)，「日華人民共和国出土文物展の見どころ」(日本と中国，1978年2月5日号，日本中国友好協会（正統）中央本部)。

田川孝三

③「誠庵文庫訪書談」(東洋文庫書報9，141～151頁，東洋文庫，1978年3月)，⑧「李朝における地方の 自治的組織と民政」(大韓民国檀国大学第七回東洋学術会議，1977年10月15日)。

竺沙雅章

③「宋代浙西の道民について」(東洋史研究38―3，75～100頁，東洋史研究会，1977年12月)，⑦「蘇軾」(ＮＨＫラジオ，1977年8月15日)，⑧「“満州国” 留学生のこと」(『歌文集・丹波自受楽』517～518頁，江村定憲編刊，1977年6月)，「中国研究者のみた中国（上）一上海図書館・戒律幢寺の鍾・文物商店と俞樾の書一」(第二次中国研究者友好参観団編，東方4，9，11，12頁，東方書店，1977年12月)。

辻　直四郎

①『ヴェーダ学論集』(ＸⅤ，485頁，岩波書店，1977年12月)，⑥「カーリダーサ作『シャクンダラー姫』」(岩波文庫，pp. 235，岩波書店，1977年8月)。

鶴見尚弘

⑦「康煕十五年丈量の蘇州府魚鱗冊について」（日本大学史学会講演会， 1977年6月25日），「明・清初期における郷村とその共同体的機能」（昭和五十二年度歴史学会第二回大会；シンポジウム「再び共同体の歴史的意義について」，1977年11月25日）。

鳥海　靖

②『田中正造全集第13巻日記5』（林茂氏らと共編， 558頁， 岩波書店， 1977年8月），『伊藤博文関係文書第6巻』（伊藤隆氏らと共編，488頁，塙書房，1978年3月）。③「近代日本における政治指導の特色」（『伝統と創造』7， 1～41頁，神奈川県立教育センター，1977年8月），「原内閣から護憲三派内閣へ」（山本四郎編『日本史』8近代（3），151～196頁，有斐閣，1977年12月），⑤「日中和平工作に関する一史料―松本蔵次関係文書から―（一）」（東京大学教養学部人文科学科紀要66，歴史学研究報告16，歴史と文化Ⅻ，227～292頁，1978年3月），⑦「近代日本における指導者―― 近代国家創業期の政治指導者西郷・大久保・木戸を中心に」（エグゼクティブサロン経営者朝食会，1977年5月12日），「近代日本の建設者――伊藤博文と山県有朋」（イトーヨーカ堂幹部社員セミナー，1978年2月22日），「日中戦争下の民間和平工作に関する新資料」（東洋文庫談話会， 1978年2月25日，要旨；東洋文庫書報9，187～188頁，東洋文庫，1978年3月），⑧「人物研究の難しさと面白さ」（岩波講座日本歴史月報 No. 25，7～10頁，1977年5月），「人物研究の難しさと面白さ」（岩波講座日本歴史月報 No. 25， 7～10頁，1977年5月），「<座談会>義人田中正造を形成したもの」（井出孫大・由井正臣氏と，週刊読書人1184，1977年6月6日），「明治天皇と元老」（歴史読本22―15，92～97頁，新人物往来社，1977年12月），「今月の日本史」（歴史読本23―1，166～167頁，新人物往来社，1978年1月），「笠原一男先生を送る」（東京大学教養学部人文科学科紀要66，歴史学研究報告16　歴史と文化Ⅻ，293～295頁，1978年3月）。

永田雄三

③「The Iltizān System in Egypt and Turkey, A Comparative Study」（アジア・アフリカ言語文化研究14，169～194頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1977年9月）。

原田　覚

②「スタイン蒐集チベット語文献解題目録―第2分冊―』（山口瑞鳳ほか共編，136頁，東洋文庫，1978年3月），③「敦煌蔵文資料に於ける宗義系の論書（1）」（印度学仏教学研究26―1，45～49頁，日本印度学仏教学会，1977年12月）。

坂野正高

③「歴史研究と現状認識―訪中偶感―」（世界379，岩波書店，217～235頁，1977年6月），「毛主席逝去後の逝去― 張香山・孫平化両氏による国内状勢の説明を中心

として一」(福武　直編『現代の中国—東大教授訪中団報告』45～85頁，東京大学出版会，1977年10月)，「副団長の経験」(同書，321～334頁)，「吉野作造の中国観」(中央公論1092，211～215頁，1978年3月)，⑥「フランソア・ド・カリエール著『外交談判法』」，岩波書店・岩波文庫，227頁，1978年1月)，⑦「中国をまわって一友好の旅の二週間」(東洋文庫談話会，1977年4月16日)，「大学図書館の社会的機能について」(私立大学図書館協会東地区部会第4期研修分科会12月例会，1977年12月15日，国際基督教大学図書館，セミナー・ルーム)，「カリエール著『外交談判法』をめぐって」(国際基督教大学社会科学研究所研究会，1978年3月10日，同大学シーベリー・チャペル)，「馬建忠の外交論と海軍論」(学習院大学東洋文化研究所，<東アジア近代における文化摩擦>研究班・研究会，1978年5月17日，同研究所)。

藤枝　晃

②『高昌残影—出口常順蔵トルファン出土仏典断片図録（図版冊）』(京都・法蔵館，1978年1月，1帙66版)，③「敦煌オアシスと千仏洞」(「旅する仏たち—敦煌・シルクロード」毎日グラフ別冊18—1，63～67頁，毎日新聞社，1977年6月)，④「漢簡研究の現状」(「第二回木簡研究集会記録」37～43頁，奈良国立文化財研究所，1977年10月)，⑦「楷書の生態」(東方学会主催第22回国際東方学者会議特別講演，1977年6月10日，概要；"The K'ai Style Writing —An Ecological Study" 「国際東方学者会議紀要」22，28～29頁，東方学会，1977年10月)，「敦煌写本と飛鳥仏教」(朝日ゼミナール，1977年9月30日；(録音放送) 朝日放送ラジオ，1978年4月30日・5月7日)，"Manuscrits de Touen-houang" (Institut des Hautes Études Chinoises と CNRS-ERA 438 との共催，1977年10月25日—12月13日（計7回)），「大谷コレクション」(美術史談話会例会，1978年1月22日)，⑧水野恵著『印章篆刻の栞』序文（芸艸堂，1978年1月)，「表紙・トビラ（＝表紙の解説)」(言語生活307—318，筑摩書房，1977年4月—1978年3月)。

古垣光一

⑦「宋初の官員数をめぐる諸問題一真宗時代までを中心に一」(第三回若手宋代史研究会，1977年8月29日)。

本庄比佐子

⑤「V. V. ヴィシニヤコヴァ＝アキモヴァ著『革命中国での二年—1925—1927年』」(近代中国2，47～49頁，巌南堂書店，1977年7月)，⑥「ソ連科学アカデミー極東研究所編著『中国革命とソ連の顧問たち』」(毛里和子共訳，255頁，日本国際問題研究所，1977年3月)。

松濤誠達

③「プラーナ聖典における絶対者—『ヴィシュヌ・プラーナ』に現われる絶対者」(『玉城康四郎博士還暦記念論集・仏の研究』595～608頁，春秋社，1977年)，⑧「ブ

ッダが受けなかった布施」(『現代思想』総特集ブッダ―インド文化圏への視点 238～246頁，青工社，1977年12月)，「インド文化史上のトリックスター」(名著通信7―18・連載，名著普及会，1977年4月―1978年3月)。

松村　潤

②『コンサイス世界年表』(共編，1036頁，三省堂，1976年11月)，『「満文老檔」・「旧満洲檔」対照表―太宗朝』(『遊牧社会史探求別冊』，76頁，1978年3月)，③「シルクロードの風土」(学叢21，68～73頁，日本大学文理学部，1976年12月)，⑦「東洋史よりみたる邪馬台国」(日本大学通信教育部学術講演会，長崎市医師会医療センター，1977年12月25日)，⑧「中秋節」(月刊健康9月号，3～4頁，1977年9月)，「日本を考える―外からみた日本（座談会)」(学叢24，13～40頁，1978年3月)。

護　雅夫

①『古代遊牧帝国』(中央公論社，1976年7月，258頁)，③「いわゆるbökliについて――歴史学と民族学との間――」(『江上波夫教授古稀記念論集，民族・文化篇』299～324頁，山川出版社，1977年4月)，「トルコの『右翼』政党と『左翼』政党」(中東通報257，1～8頁，中東調査会，1977年11月)，「トルコの言語問題」(月刊シルクロード3―9，26～27頁，シルクロード社，1977年11月)，「現在のトルコにおける『極右』思想とその源流」(月刊シルクロード3―10，21～25頁，シルクロード社，1977年12月)，⑤「エス＝ゲー＝クリャシュトルヌィ・イ＝ウ＝サンブ『ウルグーヘム地域における新発見のルーン体文字銘文』(東洋学報58―1・2，205～209頁，東洋文庫，1976年12月)，「エロル＝ギュンギョルその他編『アトスズ献呈論文集』」(東洋学報58―3・4，151～157頁，東洋文庫，1977年3月)，「『トルコ世界ハンドブック』」(東洋学報59―3・4，109～113頁，東洋文庫，1978年3月)，⑦「シルクロードの歴史」(弥生会，1976年3月3日)，「砂漠とオアシス」(ＮＨＫ教育テレビ，1976年5月28日)，「トルコと日本」(姉水会，1976年6月15日)，「Türk Tarihi（トルコ民族史)」(イスタンブル・トルコ―日本婦人協会，1976年12月22日)，「Tarih boyunca Japon Kadınları（日本女性史」，(イスタンブル・トルコ―日本婦人協会，1977年2月23日)，「Türkiye ile Japonya arasındaki Münasebetler（トルコと日本との関係)」(イスタンブル・ロータリークラブ，1977年3月29日)，「トルコの教官と学生」(内陸アジア史学会大会公開講演，1977年11月7日)，「オスマン朝のティマル制度」(日本オリエント学会第19回大会第2部会シンポジウム「イスラム史におけるイクターの諸問題」1977年11月27日)，「ニハール・ヒュセイン・アトスズと現代トルコにおけるトゥラニアニズム」(日本オリエント学会月例講演会，1977年12月10日)，「トルコの大学で教えて」(ユネスコ東アジア文化研究センター「アジアの教育プロジェクト」1977年12月10日)，「トルコ民族・トルコ・トルコ人」(国際親善の会，地域研究会，1978年1月24日)，「トルコの歴史のなかから」(日本―トルコ婦人協会，1978年1月30日)，「漢とローマ」(鎌倉市成人大学講座，1978年2月

18日)，「トルコ民族とシルクロード」(月曜会，1978年2月20日)，「大唐の春」(鎌倉市成人大学講座，1978年2月21日)，「トルコ民族と東西文化の交流」(アサヒゼミナール，1978年3月3日)，「トルコあれこれ」(十六日会，1978年3月17日)，「シルクロードの成立」(月曜会，1978年3月20日)，⑧「李陵とわたし」(中島敦全集第二巻月報，5～7頁，筑摩書房，1976年5月)，「アマとプロ」(中等教育資料346，26～27頁，文部省中学校教育課・高等学校教育課，1976年5月)，「ナスレッディン＝ホジャとその物語」(野性時代3－6，154～155頁，角川書店，1976年6月)，「トルコでトルコ史を教えた私」(中央公論，148～158頁，1977年11月)，「古代トルコ民族と仏教」(現代思想5－14，114～124頁，1977年12月)，「ソグド人と中央アジア史」(月刊シルクロード4－2，57～62頁，シルクロード社，1978年2月)，「ソ連の東洋学」(東京新聞，1978年2月13・14日)，「イスタンブール大学中央図書館」(図書館の窓17－2，11～13頁，東京大学附属図書館1978年2月)。

山口瑞鳳

②『スタイン蒐集チベット語文献解題目録－第2分冊－』(共編，136頁，東洋文庫，1977年3月)，③「「吐蕃」の国号と「羊同」の位置」(東洋学報58－3・4，55～95頁，東洋文庫，1977年3月)，「「活仏」について」(『玉城康四郎博士還暦記念論集・仏の研究』，283～302頁，春秋社，1977年11月)，"On the "Annals" relating to Princeso Wen-ch'eng" (Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko, No. 35, pp. 123～130，東洋文庫，1978年3月)。

山崎元一

③「アンベードカルの仏教」(国学院雑誌79－3，38～56頁，国学院大学，1978年3月)，⑦「古代インドにおける史実と伝承」(北海道大学文学部講演会，1977年10月12日)，「アンベードカルの仏教」(東洋文庫談話会，1177年11月26日)，⑧「ヴェーダの世界から中世へ」「カーストの定め」(辛島昇編『インド入門』，28～45，181～202頁，東京大学出版会，1977年12月)。

山根幸夫

①『明帝国と日本』(『図説中国の歴史』7，206頁，講談社，1977年7月)，②『増訂日本現存明人文集目録』(東京女子大学東洋史研究室，280頁，1978年3月)，③「明・清初の華北の市集と紳士・豪民」(『中山八郎教授頌寿記念明清史論叢』303～332頁，燎原書店，1977年12月)，「明清時代華北市集の牙行」(『星博士退官記念中国史論集』227～248頁，星博士退官記念事業会，1978年1月)，⑤「大久保英子著『明清時代書院の研究』」(東洋学報59－1・2，167～173頁，東洋文庫，1977年10月)，「岡本さえ著『弐臣論』」(法制史研究27，303～305頁，法制史学会，1978年3月)，「胡春恵著『韓国独立運動在中国』」(東洋学報59－3・4，97～101頁，東洋文庫，1978年3月)，⑥「閔闘基著『清代「生監層」の性格(下)――特にその階層的個別性について――」(稲田英子共訳，明代史研究5，45～74頁，明代史研究

会，1977年12月)，⑦「蔡元培と北京大学」(京大人文科学研究所五四運動研究班例会，1977年５月20日)，「広東の歴史」(東京外国語大学Ａ・Ａ研夏期広東語講習会，1977年８月２日)，「河南商城県の在城紳士と在郷紳士」(京大人文科学研究所明・清研究班例会，1977年９月21日)，「中国学の目録・索引について」(私立大学図書館協会書誌作成分化会，1978年１月12日)，⑧「東洋学の研究文献目録について」(史論30，65〜74頁，東京女子大学読史会，1977年４月)，「『近代史資料』について」(燎原１，９〜10頁，燎原書店，1977年５月)，「中国の排日・抗日運動の展開―日中戦争に至る過程―」(日本と日本人シリーズ33，早稲田ウィークリー　290，早稲田大学広報課，1977年６月30日)，「比較文化研究所の書架（その３）」(比較文化24―１，東京女子大学比較文化研究所，1977年10月)，「中国を旅して」(東京女子大学学報301，東京女子大学，1977年12月)，「『明清史論叢』の刊行について」(燎原３，７〜８頁，燎原書店，1978年１月)。

Ⅳ 業務報告

1. 庶務報告

A. 財団法人東洋文庫理事会・評議員会

理事会

第218回　開催日　昭和52年6月7日（火）
　出席者　榎　一雄，有光次郎，河野六郎，酒井杏之助，高垣寅次郎
　　松本重治，山本達郎
　委任状　辻　直四郎，小笠原光雄，川北禎一，徳川宗敬，岡東　浩

第219回　開催日　昭和52年10月18月（火）
　臨時持回り

第220回　開催日　昭和52年12月13月（火）
　出席者　榎　一雄，有光次郎，小笠原光雄，河野六郎，高垣寅次郎
　　山本達郎
　委任状　辻　直四郎，川北禎一，酒井杏之助，徳川宗敬，松本重治
　　中島正樹

評議員会

第97回　開催日　昭和52年6月7日（火）
　出席者　榎　一雄，河野六郎，坂本太郎，向坊　隆
　委任状　石川忠雄，梅原末治，岡本道雄，中山素平，長谷川周重
　　俣野健輔，村井資長

B. 東洋学連絡委員会

前期　開催日　昭和52年5月31日（火）
　議　題　1．昭和51年度財団法人東洋文庫事業報告について
　　2．昭和52年度財団法人東洋文庫事業計画書について

後期　開催日　昭和52年10月25日（火）
　議　題　1．昭和52年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
　　2．昭和53年度財団法人東洋文庫事業計画案について

C. 東洋文庫維持会

本維持会は、財団法人東洋文庫の事業を援助発展させることを目的として結成されたもので、現在の会員は下記の通り48社である。会員には普通会員（個人），賛助会員（個人又は法人団体），及び特別会員があり、特別会員を除き年会費（普通会員1口5千円以上、賛助会員1口50千円以上）を納入する。

東洋文庫維持会会員名簿　（昭和53年3月31日現在　敬称略・順不同）

三菱重工業 株式会社	三菱瓦斯化学 株式会社
株式会社 三菱銀行	三菱建設 株式会社
旭硝子 株式会社	三菱自動車工業 株式会社
三菱化成工業 株式会社	三菱自動車販売 株式会社
三菱金属 株式会社	三菱樹脂 株式会社
三菱鉱業セメント 株式会社	三菱製鋼 株式会社
三菱地所 株式会社	三菱製紙 株式会社
三菱商事 株式会社	三菱モンサント化成 株式会社
三菱石油 株式会社	三菱油化 株式会社
三菱電機 株式会社	株式会社 伊勢丹
三菱レイヨン 株式会社	エーザイ 株式会社
日本郵船 株式会社	小田急電鉄 株式会社
三菱信託銀行 株式会社	株式会社 西武百貨店
三菱倉庫 株式会社	東亜建設工業 株式会社
明治生命保険 相互会社	東亜燃料工業 株式会社
株式会社 竹中工務店	戸田建設 株式会社
千代田化工建設 株式会社	日産火災海上保険 株式会社
東京急行電鉄 株式会社	日本信託銀行 株式会社
日興証券 株式会社	株式会社 日立製作所
麒麟麦酒 株式会社	富士紡績 株式会社
東京海上火災保険 株式会社	本田技研工業 株式会社
日本光学工業 株式会社	精工産業 株式会社
三菱アセテート 株式会社	誠和 株式会社
三菱アルミニウム 株式会社	
三菱化工機 株式会社	計 48 社

2. 人事報告

役員異動

年　月　日	役職名	氏　　名	区　分	備　　考
52. 5. 28	評議員	久　野　　洋	退　任	慶応義塾塾長
〃	〃	石　川　忠　雄	就　任	〃
52. 6. 7	〃	林　健太郎	退　任	東京大学総長
〃	〃	向　坊　　隆	就　任	〃
〃	監　事	岡　東　　浩	退　任	東山農事株式会社相談役
〃	〃	中　島　正　樹	就　任	株式会社三菱総合研究所社長
52. 11. 19	理　事	榎　　一　雄	表　彰	勤続40年功労者

職員異動

年　月　日	役　職　名	氏　　名	区　分	備　　考
52. 4. 1	研究員(兼任)	清　水　宏　祐	就　職	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手
52. 9. 30	司　書	西　薗　利　子	退　職	
52. 11. 1	〃	早　川　晶　子	就　職	
52. 11. 19	課　長	平　野　　豊	表　彰	勤続20年
53. 1. 31	司　書	早　川　晶　子	退　職	
53. 2. 1	〃	浅　野　千　秋	就　職	

3. 会計報告

昭和52年度財団法人東洋文庫収支決算書

昭和53年３月31日現在

収入の部		支出の部	
科目	金額（千円）	科目	金額（千円）
一般会計		一般会計	
国庫補助金	35,883	経常費	56,844
維持会費収入及寄付金収入	39,300	事業費	49,569
財産収入	7,506		
事業収入	23,547		
雑収入	177		
小計	106,413	小計	106,413
特別会計		特別会計	
ユネスコ東アジア文化研究センター収入	65,729	ユネスコ東アジア文化研究センター経費	65,729
国庫補助金	64,864	経常費	45,450
財産収入	12	事業費	20,279
雑収入	853	文部省科学研究費	10,000
文部省科学研究費国庫補助金	10,000	民間研究助成金研究費	7,800
民間研究助成金	7,800		
小計	83,529	小計	83,529
合計	189,942	合計	189,941

国庫補助金年庫別受入額一覧表

年度別	一般会計	特別会計			合計
		ユネスコ東アジア文化研究センター会計	科学研究費補助金会計	計	
	千円	千円	千円	千円	千円
22	320	—	—	—	320
23	600	—	—	—	600
24	720	—	—	—	720
25	530	—	—	—	530
26	350	—	1,070	1,070	1,420
27	600	—	150	150	750
28	1,000	—	4,500	4,500	5,500
29	1,000	—	1,300	1,300	2,300
30	3,850	—	4,310	4,310	8,160
31	6,850	—	1,940	1,940	8.790
32	6,850	—	2,650	2,650	9,500
33	6,850	—	500	500	7,350
34	6,765	—	5,640	5,640	12,405
35	6,562	—	6,010	6,010	12,572
36	6,000	10,000	3,600	13,600	19,600
37	6,000	11,000	2,010	13,010	19,010
38	6,000	12,000	2,785	14,785	20,785
39	7,828	12,571	3,350	15,921	23,749
40	8,382	12,550	8,895	21,445	29,827
41	9,500 (9,166)	14,500 (14,257)	9,160	23,417	32,583
42	11,500 (10,901)	16,000 (15,623)	7,560	23,182	34,083
43	11,500	16,700	9,900	26,600	38,100
44	13,500 (13,236)	21,700 (21,466)	7,300	28,766	42,002
45	15,300 (14,827)	24,500 (24,061)	6,900	30,961	45,788
46	17,200 (16,659)	27,600 (27,177)	13,900	41,077	57,736
47	19,000 (18,377)	31,000 (30,430)	11,000	41,430	59,807
48	25,000 (24,173)	39,500 (38,636)	3,300	41,936	66,109
49	29,000 (28,383)	50,000 (49,277)	9,420	58,697	87,080
50	33,000 (30,849)	58,000 (56,079)	14,040	70,119	100,968
51	34,500 (33,750)	60,565 (59,845)	0	60,565	95,065
52	36,632 (35,883)	65,572 (64,864)	10,000	75,572	112,204
53	41,036	68,657	11,000	79,657	120,693

下段記入の（　）内は決算額

文部省科学研究費補助金年度別受入一覧表

年度	区分	研究課題	研究代表者	補助金額（千円）	
26	研究成果刊行費	プラーフマナとシュラウタスートラとの関係	辻　直四郎	400	1,070
	〃	日清戦役外交史の研究	岩井大慧	200	
	〃	支那経済史考証	和田　清	390	
	各個研究	古代中国の民族構成の研究	〃	80	
27	研究成果刊行費	明代建州女直史研究	園田一亀		150
28	機関研究	スタイン博士蒐集敦煌文書のマイクロフィルム撮影並びにその整理研究	岩井大慧		4,500
29	〃	〃	〃		1,300
30	〃	〃	〃	4,000	4,310
	研究成果刊行費	満文老檔 Ⅰ	神田信夫	310	
31	機関研究	スタイン博士蒐集敦煌文書のマイクロフィルム撮影並びにその整理研究	岩井大慧	1,700	1,940
	研究成果刊行費	満文老檔 Ⅱ	神田信夫	240	
32	機関研究	スタイン博士蒐集敦煌文書のマイクロフィルム撮影並びにその整理研究	岩井大慧	1,700	2,650
	総合研究	スタイン将来敦煌文献の調査研究	鈴木　俊	500	
	研究成果刊行費	満文老檔 Ⅲ	神田信夫	370	
33	総合研究	スタイン将来敦煌文献の調査研究	鈴木　俊		500
34	機関研究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	4,000	5,640
	総合研究	スタイン将来敦煌文献の調査研究	鈴木　俊	800	
	〃	日唐法制経済文書の比較研究―正倉院文書と敦煌文書―	仁井田　陞	500	
	研究成果刊行費	満文老檔 Ⅳ	神田信夫	340	

年度	区　　分	研　究　課　題	研究代表者	補助金額（千円）	
35	機関研究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	4,800	6,010
	総合研究	西域出土古文書・古文献の調査研究	鈴木　俊	900	
	研究成果刊行費	満文老檔Ⅴ	神田信夫	310	
36	機関研究Ｂ	イスラーム諸国の社会構造の研究	榎　一雄	1,500	3,600
	〃　Ｃ	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	600	
	総合研究	西域出土古文書・古文献の調査研究	鈴木　俊	1,200	
	研究成果刊行費	満文老檔Ⅵ	神田信夫	300	
37	機関研究Ｂ	イスラーム諸国の社会構造	榎　一雄	1,700	2,010
	研究成果刊行費	満文老檔Ⅶ	神田信夫	310	
38	特定研究	イスラーム諸国の社会構造	榎　一雄	1,700	2,785
	研究成果刊行費	日本文・中国文・朝鮮文等逐次刊行物目録	岩井大慧	1,045	
	各個研究	李朝仁祖朝に於ける贖還問題と対清貿易	森岡　康	40	
39	特定研究(2)	イスラーム諸国の社会構造	榎　一雄	1,700	3,350
	総合研究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山定雄	750	
	研究成果刊行費	中国地方志連合目録	岩井大慧	850	
	各個研究	北日本における晩期縄文文化の研究	渡辺兼庸	50	
40	機関研究Ａ	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	5,400	8,895
	特定研究(2)	イスラーム諸国の社会構造	榎　一雄	1,440	
	総合研究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山定雄	675	
	研究成果刊行費	梅原考古資料目録（朝鮮之部）	榎　一雄	550	
	〃	漢籍叢書所在目録	森　鹿三	830	

年度	区　　分	研　究　課　題	研究代表者	補助金額（千円）	
41	機関研究A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	4,140	9,160
	特定研究(2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎　一雄	2,700	
	総合研究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末松保和	1,200	
	〃	パーリ語辞典編集のための基礎的研究	辻　直四郎	300	
	研究成果刊行費	漢籍分類目録集部（東洋文庫の部）	〃	820	
42	機関研究A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	3,360	7,560
	特定研究(2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎　一雄	2,700	
	総合研究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末松保和	1,200	
	〃	パーリ語辞典編纂のための基礎的研究	辻　直四郎	300	
43	一般研究A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的研究	青山定雄	7,080	9,900
	特定研究(2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎　一雄	2,820	
44	一般研究A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的研究	青山定雄	2,000	7,300
	特定研究(2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎　一雄	2,820	
	総合研究A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻　直四郎	2,000	
	研究成果刊行費	唐代の服飾	原田淑人	490	
45	一般研究A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主性の体系的研究	青山定雄	800	6,900
	総合研究A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻　直四郎	1,600	
	海外学術調査	インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集	榎　一雄	4,500	

年度	区　　分	研　究　課　題	研究代表者	補助金額（千円）	
46	一般研究A	日本を中心とする近代東アジア国際関係の史的研究	市古宙三	11,500	13,900
	総合研究A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻　直四郎	1,400	
	〃	李朝後半期の農村社会文化	田川孝三	1,000	
47	一般研究A	日本を中心とする近代東アジア国際関係	市古宙三	5,000	11,000
	総合研究A	李朝後半期の農村社会文化	田川孝三	1,600	
	海外学術調査	インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集	榎　一雄	4,000	
48	特定研究(2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市古宙三	2,500	3,300
	海外学術調査	東洋文庫インド・シッキム・ネパール調査隊収集チベット文献の整理と目録作成	北村　甫	800	
49	一般研究A	南アジアにおける文化変容の研究および資料の収集	榎　一雄	6,690	9,420
	〃　D	明代の地方行政区割，府・州・県の地理的沿革に関する研究	鶴見尚弘	230	
	特定研究(2)	両大戦間の中国をめげる国際情勢	市古宙三	2,500	
50	一般研究A	イスラム社会の構造に関する歴史学的研究	辻　直四郎	11,500	14,040
	〃　D	敦煌出土寺院関係古文書の基礎的研究	土肥義和	290	
	特定研究(2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	榎　一雄	2,550	
52	一般研究A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎　一雄		10,000
53	一般研究A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎　一雄	3,000	11,000
	総合研究A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻　直四郎	3,600	
	〃	李朝に於ける地方自治組織並びに農村社会経済語彙の研究	田川孝三	4,400	

V　役職員名簿

昭和53年３月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は，以下のとおりである。

1. 役　　員

役職名	氏　　名	現　　職
理事長	辻　直四郎	日本学士院会員　東京大学名誉教授
専務理事	榎　一雄	国立国会図書館支部東洋文庫長　財団法人東洋文庫研究部長　財団法人東洋文庫図書部長　財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長　東京大学名誉教授
理事	有光次郎	東京家政大学学長
〃	小笠原光雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	川北禎一	株式会社日本興業銀行相談役
〃	河野六郎	大東文化大学教授
〃	酒井杏之助	株式会社第一勧業銀行相談役
〃	高垣寅次郎	日本学士院会員　一橋大学名誉教授　成城学園名誉園長
〃	徳川宗敬	神社本庁統理　社団法人日本博物館協会会長
〃	松本重治	財団法人国際文化会館理事長
〃	山本達郎	日本学士院会員　国際基督教大学教授　東京大学名誉教授
監事	中島正樹	株式会社三菱総合研究所社長　社団法人経済団体連合会評議員　経済同友会幹事
評議員	石川忠雄	慶応義塾塾長　慶応義塾大学学長
〃	梅原末治	京都大学名誉教授
〃	岡本道雄	京都大学学長
〃	坂本太郎	日本学士院会員　国学院大学教授　東京大学名誉教授
〃	中山素平	株式会社日本興業銀行相談役
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社会長
〃	俣野健輔	飯野海運株式会社会長
〃	向坊　隆	東京大学総長
〃	村井資長	早稲田大学総長

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏　　名	現　　職
委員長	辻　直四郎	（前　出）
委　員	岩生成一	日本学士院会員
〃	江上波夫	上智大学教授　東京大学名誉教授
常任委員	榎　一雄	（前　出）
委　員	貝塚茂樹	京都大学名誉教授
〃	塚本善隆	仏教大学教授　華頂短期大学学長
〃	長尾雅人	鉄鋼短期大学教授　京都大学名誉教授
〃	福井康順	早稲田大学名誉教授
〃	松本信廣	慶応義塾大学講師　慶応義塾大学名誉教授
〃	宮崎市定	京都大学名誉教授
〃	森　鹿三	仏教大学教授　京都大学名誉教授
常任委員	山本達郎	（前　出）
委　員	吉川幸次郎	日本芸術院会員　京都大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏　　名	現　　職
W. T. デ・パリイ	コロンビア大学教授
P. ドウミエヴィユ	フランス学士院会員，元コレージュ・ド・フランス教授
W. フックス	元ケルン大学教授
B. カルルグレン	元スウェーデン王立極東古代博物館館長
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授，元駐日アメリカ大使
W. サイモン	イギリス学士院会員，元ロンドン大学教授
G. トウッチ	ローマ大学教授，イタリア中東亜研究所所長
A. フォン・ガベイン	元ハンブルグ大学教授
A. B. ディヴィス	シドニー大学教授
J. ヂェルネ	第7パリ大学教授，フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職　　員

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	部　　長	榎　　一　雄	（前　出）
	部長代理	護　　雅　夫	東京大学教授
	部長補佐	田　中　正　俊	東京大学教授
	研究顧問	岩　村　　忍	京都大学名誉教授
	〃	村　田　治　郎	京都大学名誉教授
	研究員(兼任)	青　山　定　雄	聖心女子大学講師
	〃	荒　　松　雄	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	池　田　　温	東京大学教授
	〃	岩　生　成　一	（前　出）
	〃	宇都木　　章	青山学院大学教授
	〃	梅　原　末　治	（前　出）
	〃	岡　田　英　弘	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	越　智　重　明	九州大学教授
	〃	亀　井　　孝	成城大学教授
	〃	川　崎　信　定	筑波大学助教授
	〃	神　田　信　夫	明治大学教授
	〃	菊　池　英　夫	北海道大学教授
	〃	北　村　　甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	草　野　　靖	熊本大学助教授
	〃	河　野　六　郎	（前　出）
	〃	後　藤　均　平	立教大学教授
	〃	佐　伯　　富	京都大学名誉教授
	〃	酒　井　憲　二	図書館短期大学助教授
	〃	滋　賀　秀　三	東京大学教授
	〃	清　水　宏　祐	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手
	〃	末　松　保　和	学習院大学名誉教授
	〃	周　藤　吉　之	東洋大学講師
	〃	関　野　　雄	お茶の水女子大学教授
	〃	田　川　孝　三	日本大学講師
	〃	田　中　時　彦	東海大学教授
	〃	田　中　正　俊	（前　出）
	〃	竺　沙　雅　章	京都大学助教授
	〃	鶴　見　尚　弘	横浜国立大学助教授
	〃	土　肥　義　和	国学院大学助教授
	〃	鳥　海　　靖	東京大学助教授
	〃	中　嶋　　敏	大東文化大学教授
	〃	永　田　雄　三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授

部名	職名	氏名	現職
研究部	研究員(兼任)	坂野正高	国際基督教大学教授
	〃	藤枝晃	京都大学名誉教授
	〃	松濤誠達	大正大学講師
	〃	松村潤	日本大学教授
	〃	松本信廣	慶応義塾大学名誉教授
	〃	三根谷徹	東京大学教授
	〃	護雅夫	(前出)
	〃	山口瑞鳳	東京大学助教授
	〃	山崎元一	国学院大学助教授
	〃	山根幸夫	東京女子大学教授
	〃	山本達郎	(前出)
	〃	渡辺紘良	独協医科大学助教授
	研究員(専任)	金子良太	
		本庄比佐子	
		松本明	
図書部	部長	榎一雄	
	主査	中島正之、森岡康、渡辺兼庸	
	副主査	大塚祐子、竹之内信子、児野寿満子、秩父良子 広瀬洋子	
	係員	浅野千秋、池田直人、小林輝男、小山勲、西薗一男	
総務部	部長	早船艶雄	
	課長	平野豊	
	係員	稲村優、宇田川善吉、染谷コウ、高木美智子 光田憲雄、谷治嘉紀	

5. 臨時職員

昭和52年4月1日より昭和53年3月31日に至る期間に臨時職員として在籍した者は以下の通りである。

飯島明子，飯島和俊，飯田隆子，石井智恵、市古健次，大島立子，小沢　彰
加治　恵，片桐扶佐子，木村龍生，久保恵子，小松久男，五島京子，佐々木淑子
嶋村登美子，関根秋雄，仙波志津枝，中山皎子，弘末雅士，宮沢明子，武藤　淳
森川孝典，山名弘史，渡辺　修

Ⅵ　財団法人・東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センター事業

1.　調 査 研 究 事 業

A.　長期調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【年度】 10ヶ年計画第3年度

【概要】 本計画は，センターがユネスコ本部に提案し，1974年のユネスコ総会で採択された研究計画である。この計画実施のために昭和51年3月に，センターが受入機関となって東京で開催された「アジア地域文化研究機関代表者会議」の決議に基いて，各国で調査研究が進められているが，センターでは，52年度は，次の三つの研究テーマによる調査研究を実施した。

A—1.　「アジア諸国の教育の目標」

【概要】 50年度より4年計画で実施されている調査研究事業で，アジア諸国の伝統と近代教育の関係を総合的にとらえる問題意識及びそれを深化させるための方法論の開発・研究を目的とし，近代・現代のアジア諸国のもつ教育の現実的諸問題とそれを解決しようとする目標を包括的に考察しようとする調査研究事業である。

【専門委員】 榎　一雄（委員長），阿部　洋，馬越　徹，津田元一郎，豊田俊雄，弘中和彦。

【事業内容】 本年度は研究会を継続したほか，初年度来の研究成果を，最終年度たる来年度に文章化するための打合せを行なった。研究会等は以下のとおり。

4月23日　小林文男：「現代中国と教育」
5月28日　小沢有作：「タンザニアの教育」
6月25日　川野辺　敏：「ソビエト社会主義共和国の教育」
9月10日　豊田俊雄：「ケニアの教育」
10月8日　津田元一郎：「変貌するアジアと教育の動向」
12月10日　護　雅夫：「トルコの大学で教えて」

1月28日　蓮見治雄：「モンゴルの教育」
3月4日　本年度事業の総括討論
3月24日　来年度事業実施打合せ会議（『アジアの教育における伝統と変革』──仮題──の編集方針を討議し，執筆者の選択を行なった。）

A—2.　「アジアの伝統文化における理想像──年中行事と生涯行事の分析──」

【概要】 51年度より進めている調査研究事業で，アジア諸民族のもつユートピア思想を，各種の行事や儀式の調査・分析をとおして探究することを目的とする。調査・研究の性格上，アジア諸国の研究者・研究機関との協力体制の推進が必要である。
【専門委員】 中根千枝（委員長），伊藤亜人，梶原景昭，関本照夫，田村克己，柳川啓一。
【事業内容】
研究会
4月27日　伊藤亜人：「珍島の年中行事」
　　　　　船曳建夫：「秘密結社と儀礼」
7月12日　田村克己：「ビルマの調査について」
3月28日　S．ブディサントソ：「ジャワの妊娠7ヶ月の儀礼」
海外実地調査
調査地：韓国
調査者：伊藤亜人
調査期間：昭和52年5月2日～6月10日

A—3.　「アジア諸文化の特色」

【概要】 本年度から開始されたもので，アジア各地の伝統的芸術・芸能等の文化遺産の現状及び由来を調査し，それらの現代における意味を探ることを目的としている。本年度は、バンコックで開催される予定の専門家会議に提出する報告書の作成及び来年度からの本格的な調査研究のための情報収集などの準備を行なった。

B．　一般調査研究

B—1.　「世界における東洋学の現状調査」

【年度】 7ヶ年計画第6年度
【概要】 「東アジア諸国における自国研究ならびにアジア研究の現状調査と将来の展望」に関する調査については，昨年度に提出されたフィリッピン，マレーシア及びタイ国における研究の現状に関する報告書を整理しユネスコ本部に提出した。また国際交流による情報交換をおこなった。

【専門委員】 護　雅夫（委員長），池端雪浦，石井米雄，鳥海　靖，長井信一，松村潤。

【事業内容】

海外専門家の招聘（昭和52年9月15日より26日まで）

　リー・ポー・ピン Lee Poh Ping，マラヤ大学経済行政学部教授

　専門委員会・研究会：9月17日　「マレーシアにおける東洋学研究の現状」

その他の専門委員会：3月25日　「次年度計画について」

B—2.　「東アジア文化研究」

【概要】 東アジア文化の形成に欠くことのできない要素としての「青銅器文化」，「稲作文化」の二つの文化に注目し，資料整理とともに調査研究を進めることを目的とする。

【事業内容】 「青銅器文化」については，梅原末治氏蒐集の，主に中国青銅器資料の整理にあたり，また東洋文庫所蔵のシベリア青銅器関係の書籍・文献の調査・整理を行なった。「稲作文化」についても本格的調査のための情報収集を進めた。

2.　学術交流及びドキュメンテーション活動

A. 学術国際交流事業

A—1.　外国人研究者の招聘

　エディルベルト　C. デ・ヘスス Edilberto C. De Jesus，アジア経営大学院助教授：53年3月27日より4月13日まで。

　リー・ポー・ピン　上記「調査研究事業」のB—1項参照。

A—2.　外国人研究者による研究会の開催

　陳　志譲 Jerome Ch'en（カナダ　トロント　ヨーク大学教授）「中国共産党史における諸問題」（52年4月20日）

　M. J. メイヤー M. J. Meijer（ライデン大学教授）「清律における故殺について」（52年10月12日）

　クリストフ・グラマン Kristof Glamann（コペンハーゲン大学教授）「17世紀における日本の銅とヨーロッパの権力政治」（52年11月12日）

A—3. 研究者および職員の海外出張

清水宏祐　53年2月24日より3月15日までイランに派遣し、マイクロフィルム購入などをおこなった（下記C「資料の調査、収集及び整理」の項参照）。

伊藤亜人　上記「長期調査研究事業」（A－3）の項参照。

生田　滋　52年10月20日より11月3日まで，ユーゴスラヴィアのドブロヴニクにて開催のアジア関係文書目録編集連絡会議（国際公文書館主催）およびパリのユネスコ本部に派遣した。

A—4. その他

今年度、センターを訪れ、センターが便宜供与した外国人研究者は以下のとおりである。

Dr. Keith W. Taylor: Instructor, Council of Modern English Training, Tokyo

Mr. Percy Stulz: Director, Division of Cultural Studies and Circulation, Unesco, Paris

Mrs. Noriko Aikawa: Division of Cultural Studies and Circulation, Unesco, Paris

Dr. James R. Brandon: Professor, Department of Performing Arts, University of Hawaii at Manoa

Mr. Ying C. Wu: Harvard-Yenching Institute Library, Cambridge, Mass.

Dr. Iskenderov Akhmed Akhmedvich: Deputy Director, Institute of General History, Academy of Sciences of the USSR, Moscow

Ms. Lynn Pan: Lucy Cavendish College, Cambridge University, Cambridge

Prof. Hsu Yu: Professor in Chinese Language and Literature, Baptist College, Hong Kong

Dr. Michael Milgrim: Department of History, Pahlavi University, Shiraz

Dr. Lee Poh Ping: Professor, Faculty of Economics and Administration, University of Malaya, Kuala Lumpur

Dr. Sedot Alp: Professor, Faculty of Languages, History, and Geography, Ankara University

Mrs. Satjawati Suleiman: Director, Archaeological Service, Jakarta

Prof. Kuan Tung-kuei: Research Fellow, Institute of History and Philology, Academia Sinica; Professor Tunghai University, Taipei

Dr. Kristof Glamann: Professor of History, Institute of Economic History, University of Copenhagen

Dr. Lewis Hanke: Professor of Latin American History, Emeritus, University of Massachusetts, Amherst

Prof. Choe Hong-kee: Professor, College of Social Sciences, Seoul National University

Dr. Cheng Te-k'un: Pro-Vice-Chancellor, The Chinese University of Hong Kong

Dr. Chen Chingho: Reader, Section of Japanese Studies ; Associate Director, Institute of Chinese Studies ; Director, Centre for East Asian Studies, The Chinese University of Hong Kong

Dr. S. Budhisantoso: Lecturer, Department of Anthropology, Faculty of Letters, University of Indonesia, Jakarta

Mr. Yopie Wangania: Student, University of Tokyo

Dr. Edilberto C. de Jesus: Professor, Asian Institute of Management, Manila

B. 文献目録等の作成

B—1. 「日本における近代中国研究の現状」調査

【連絡委員】 安藤彦太郎，市古宙三，今堀誠二，衛藤瀋吉，川勝　守，河地重造，菊池英夫，鈴木中正，田中正俊，藤本　昭，堀川哲男，山田辰雄。

昨年度にひきつづき，国内の近代中国研究者の姓名，住所，現職，専門領域，業績の調査をおこない，名簿及び業績をカード化した。本カードは東洋文庫近代中国研究室参考図書室で研究者への便に供されている。また3月27日に会合を開き、本カードの編集及び出版計画について討議した。

B—2. 「イランにおけるイラン学研究者・研究機関一覧」(英文・ペルシア文)

昨年度調査した上記表題の書物の編集を終了し刊行した。

B—3. 「日本におけるアジア（含日本）研究者一覧」

本書刊行のための編集を進めた。

B—4. 「日本における東洋学の回顧と展望」(英文)三点を刊行した。

Part Ⅰ—18　久保田　淳「中世後期日本文学」Literature of Late Mediaeval Japan

Part Ⅱ—12　波多野善大「近代中国史」History of Modern China

Part Ⅱ—22　川崎信定「インド仏教」Indian Buddhism

C. 資料の調査，収集及び整理

本事業は、アジア諸国においてアジア諸言語によって書かれたアジア文化に関する学術書・学術雑誌等の刊行物の出版状況を調査し，必要なものを収集，整理すること

を目的としている。

本年度は清水宏祐を2月24日から3月15日までイランに派遣してイランにおける人文科学・社会科学の分野でのイラン（ペルシャ）語による学術刊行物の出版状況を調査し，ペルシャ語本及びテヘラン大学中央図書館所蔵古写本のマイクロフィルム約19,000齣を購入するとともに，東洋文庫所蔵のペルシャ語本の一部約16,000齣をマイクロフィルムより焼付け，整理した。

D．語学講習会の開催

モンゴル口語講習会

日時：昭和52年7月18日（月）―8月26日（金）　毎週月曜日から金曜日　午前9時より正午まで。

会場：東京外国語大学

講師：小沢重男，ドミ・トモルトゴー，蓮見治雄，城生伯太郎

E．図書の寄贈及び交換

本年度も従来どおり，センターの出版物を国内の大学，研究所，在日各国大使館など約200ヶ所、国外の大学、研究所、国際的機関など約200ヶ所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約50ヶ所，国外の研究機関約100ヶ所から定期的に出版物の寄贈をうけた。

3．出版物の作成

A．機関誌 East Asian Cultural Studies の刊行

本年度は，Vol. XVII，Nos. 1―4 合併号を刊行した。内容はタイ国タマサット大学 Mattani Rutnin 教授による論文で，49年度に終了した「東アジア諸国の近代化の過程における伝統文化の変容とその新発展」にもとづくものである。その論題及び目次は以下のとおりである。

Modern Thai Literature : The Process of Modernization and the Transformation of Values

Preface
Introduction
Chapter I The Historical Development of Modern Thai Literature from the Reign of Rama IV to the Present
Dawn of Modernization, *The Origins of Thai Fiction*, *The Development of Drama*, *The Age of Liberalism and Individualism*; The Sixth Reign, King Vajiravudh (1910-1925) *The Role of the King in the Development of Literature*, *The Development of Fiction*; The Age of Political and Social Changes, *The Political Atmosphere*, *Literature after the Revolution*, *Social Realism in the Thai Novel*, *The Post-War Period*
Chapter II The Transformation of Literary Forms, Structures, and Themes
Transformation in Poetry, *Transformation in Non-Fictional Prose*, *Transformation in Fiction*, *Transformation in Drama*
Chapter III The Transformation of Values as Seen through *Si Phaen Din* by M.R. Kukrit Pramoj
Introductory Notes on Thai Values in General, as Seen through Literature, *The First Reign: King Chulalongkorn (Rama V)*, *The Second Reign: King Vajiravudh (Rama VI)*, *The Third Reign: King Prajadhipok (Rama VII)*, *The Fourth Reign: King Ananda Mahidol (Rama VIII)*
Chapter IV The Change in the Role of Women in Contemporary Thai Literature
Concusion
Notes
Bibliography

B. 史料・研究書の翻訳，出版

チャオプラヤ・ティパコラウォン著，タデウス・フラッド，チャディン・フラッド共訳「ラーマ一世年代記」第1巻—本文編—(英文) Chaophraya Thiphakorawong, translated and edited by Thadeus and Chadin Flood: The Dynastic Chronicles, Bangkok Era, The First Reign. Vol. I, Text. を出版した。目次は次のとおり。

Translators' Note
Note [by Prince Damrongrachanuphap, A.D. 1901]
Report Submitted to the King

The Original Preface〔by Chaophraya Thiphakorawong, A.D. 1868〕

Text (pp. 1－319)

C. 東アジア文化研究シリーズ

小林弘子著『今昔物語の研究―本朝世俗篇』(英文 A Study of the Secular Stories in "Konjaku Monogatarishū")の編集を進めた。

4. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

前期　開催日　昭和52年５月31日（火）

報告　1.　昭和51年度事業報告及び決算報告について

2.　顧問の改選について

議題　1.　昭和52年度事業計画案及び予算案について

2.　運営委員の改選について

3.　運営委員及び顧問について

後期　開催日　昭和52年10月25日（火）

報告　1.　昭和52年度事業及び会計中間報告について

2.　顧問及び運営委員について

議題　1.　昭和53年度概算要求について

顧問会議

開催日　昭和52年５月31日（火）

報告　1.　昭和51年度事業報告及び決算報告について

2.　運営委員の改選について

議題　1.　昭和52年度事業計画案及び予算案について

2.　顧問の改選について

3.　運営委員及び顧問について

B．役員異動

異動月日	役職名	氏　名	就退区分	備　考
52．4．7	運営委員	稲垣　泰彦	就　任	東京大学史料編纂所所長
52．6．24	顧　問	今村　武俊	退　任	前文部省日本ユネスコ国内委員会事務総長
〃	運営委員	中山　昭	退　任	前文部省学術国際局ユネスコ国際部長
52．7．28	〃	今　日出海	〃	国際交流基金理事長
52．7．29	顧　問	〃	就　任	〃
〃	運営委員	小山田　隆	〃	国際交流基金専務理事
52．8．6	顧　問	井内慶次郎	〃	文部省学術国際局長日本ユネスコ国内委員会事務総長
52．8．18	運営委員	仙石　敬	〃	文部省学術国際局ユネスコ国際部長
52．8．31	副所長代行	河野　六郎	退　任	財団法人東洋文庫理事
52．9．21	運営委員	澤田　徹	〃	前文部省学術国際局審議官
52．9．29	〃	手塚　晃	就　任	文部省学術国際局審議官

C．職員異動

異動月日	職　名	氏　名	就退区分	備　考
53．3．31	研究員 普及室長	後藤　明	退　職	
〃	専門員	Beverly Nelson	〃	

D．会計報告

昭和52年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

昭和53年３月31日現在

収入の部		支出の部	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
国庫補助金	64,864	職員俸給	40,667
財産収入	12	職員俸給	36,838
雑収入	853	社会保険料	2,142
		退職手当積立金	1,687
		一般管理運営費	4,783
		事業費	20,279
		長期調査研究費	4,197
		一般調査研究費	2,251
		学術交流及びドキュメンテーション活動費	7,273
		出版物の作成費	6,558
計	65,729	計	65,729

5. 役 職 員 名 簿

昭和53年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

A. 所長　　　　副所長

榎　一雄　　護　雅夫

B. 運営委員

氏　名	現　職
市村真一	京都大学東南アジア研究センター所長
伊藤良二	ユネスコアジア文化センター理事長
稲垣泰彦	東京大学史料編纂所所長
岩生成一	日本学士院会員
梅棹忠夫	国立民族学博物館館長
岡田与好	東京大学社会科学研究所所長
岡野　澄	東京工業高等専門学校校長
尾高邦雄	上智大学教授　東京大学名誉教授
大野盛雄	東京大学東洋文化研究所所長
小山田　隆	国際交流基金専務理事
鹿子木　昇	アジア経済研究所所長
北村　甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
仙石　敬	文部省学術国際局ユネスコ国際部長
高田　修	成城大学講師
手塚　晃	文部省学術国際局審議官
中村　元	東方学院長　東京大学名誉教授
服部四郎	日本学士院会員　東京大学名誉教授
林屋辰三郎	京都大学人文科学研究所所長
福井康順	早稲田大学名誉教授　前大正大学学長
前田陽一	国際文化会館専務理事　東京大学名誉教授
松本信廣	慶応義塾大学名誉教授
山本達郎	国際基督教大学教授　日本学士院会員　東京大学名誉教授
吉川幸次郎	日本芸術院会員　京都大学名誉教授

C. 顧　問

氏　名	現　職
井内　慶次郎	文部省学術国際局長・日本ユネスコ国内委員会事務総長
今　日出海	国際交流基金理事長
東畑　精一	日本学士院会員　東京大学名誉教授
平塚　益徳	日本ユネスコ国内委員会会長
前田　充明	城西大学学長

D. 参　与

氏　名	現　職
青山　秀夫	京都大学名誉教授
岩淵　悦太郎	元国立国語研究所所長
織田　武雄	京都大学名誉教授
海後　宗臣	東京大学名誉教授
田村　実造	京都大学名誉教授
都留　重人	一橋大学名誉教授
長尾　雅人	京都大学名誉教授
丸山　真男	東京大学名誉教授
三上　次男	東京大学名誉教授
宮崎　市定	京都大学名誉教授
宮本　正尊	東京大学名誉教授

E. 職　員

Beverly Nelson（専門員），生田　滋，後藤　明，外池明江、直井靖夫，西山敬子，広瀬洋子，藤井敏江，本庄比佐子，松前義治，森田嗣子

F. 臨時職員

昭和52年4月1日から昭和53年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下のとおりである。

飯田隆子，内野佳子，篠田得恵，中山皓子，林　俊雄，森川孝典

財団法人 東洋文庫年報 昭和52年度

昭和54年3月17日発行　非売品

発行者　東京都文京区本駒込 2—28—21
財団法人 東洋文庫
榎一雄

印刷者　東京都中央区湊2—2—4
株式会社 第一印刷所

発行所　東京都文京区本駒込 2—28—21
財団法人 東洋文庫

本書は昭和53年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。